

第一支部「日本庭園の基礎知識」研修終了報告
～通訳案内士の視点で日本庭園を楽しむコツ～

第一支部運営委員会

2018年12月13日(木)「日本庭園の基礎知識」研修が実施されました。参加者は37名(会員31名、非会員4名、委員2名)で関東地区のみならず、鹿児島、広島や宮城県からも参加頂き、熱心に講義に耳を傾けました。午前中は港区勤労福祉会館で座学が行われ、講師でJGA会員の池沢なるみ氏が資料と実際の庭園の写真を基に講義されました。座学では、先ず日本庭園の特徴を説明され、別名「山水」と呼ばれるように「大自然」を表現する空間造形であり、その特色は「借景」、「写景」、「縮景」、「圍繞」、「樹藝」、「さび」、等に代表され、内の建築と外の庭園とのバランスをとった見事な人智の成果とのこと。そして、日本庭園の歴史の変遷を飛鳥時代から始め、平安時代の寝殿造り庭園の出現や浄土式庭園の流行を説明。鎌倉時代には禅宗の修行の場を兼ねた禅式庭園が出現。その後、室町時代に武家の書院造りが発展し、座視鑑賞式庭園の金閣寺、銀閣寺、龍安寺や大仙院等が作られ、更に枯山水庭園が発展。安土桃山時代には豪華絢爛な城郭庭園の出現や、茶の湯と共に露地が発展し、その後の庭園に影響を及ぼし、そして江戸時代には日本庭園の集大成とも言える大規模な大名庭園・離宮が造営されたとの説明があった。一方、日本庭園の要素からの説明をされ、滝や水の流れや池に代表される水と護岸石組の荒磯や出島、曲水と鍮水などの意味を解説。又、樹木の種類や使われ方を説明し、日本庭園の奥深さを実感させられる講義となりました。その後、池沢講師がご自分で訪問して撮影した日本各地の庭園の写真を使い、それぞれの日本庭園の特徴を説明。あっという間に12時となり、その後、各自昼食をとった後、13:30に皇居東御苑の大手門前に集合し、15:00まで二の丸庭園を鑑賞しながら、午前中の知識を実際の日本庭園の中で確認。お天気にも恵まれ、絶好の研修日和となりました。研修終了後は、希望者を対象に天守台を含む江戸城跡を視察しました。参加者からは、とても分かり易く、ガイドにすぐ役立つ内容だったとのコメントを頂きました。

